

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561

第 71 号



HP <http://kohoku-saibora.jimdo.com> FB 港北区災害ボランティア連絡会

2018 年 12 月

\* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

## 知ってますか？避難所開設初動キット

—これが有ればだれでも避難所開設者になれる—

避難所の開設訓練では拠点運営委員の方々「準備万端」で待っていて、書類も用意しています。しかし実際に発災した場合は運営委員の方々がすぐに拠点に来られるとは限りません。だれでも拠点の開設ができるの良いし、運営がスムーズにできれば良いですね。それを助けるこんなキットがあります。

### 熊本地震で起きた事

- 「室内でカセットコンロを使う人がいた」
- 「充電用コンセントの奪いあいになった」
- 「後から通路を確保するのが大変だった」
- 「土足での立ち入りを禁止するのに 5 日かかった」
- 「支援の段ボールの中身が分からなかった」
- 「支援物資の段ボール箱を開けるのが大変だった」
- 「危険な所への立ち入りを規制することができなかった」



整理された避難所にするのは大変（気仙沼市）

熊本地震で避難所を運営した自治会など 21 団体に、反省点や教訓を聞き取ったところ、避難者を受け入れる「初動」に問題が多かったことに気づいて、そんな教訓を生かすキットを作ったのは、熊本大の竹内裕希子准教授です。

訓練をしていなくても、手順書通りに順番に進めて行けるよう、マニュアルを分けてその中身をカード化しているのが特徴です。既に商品化されており、税別 2 万 7 千円で販売中ですが、その他にも似たような商品もあり、東京都大田区や新宿区、富津市など多くの自治体で導入が進んでいるようです。

### 避難所初動運営キットの中身（熊本大学キットの場合）

▽使用マニュアル ▽案内標識 20 枚一式 ▽腕章 5 枚 ▽スケッチブック 1 冊 ▽軍手 10 組 ▽電源タップ 6 個口 1 本 ▽ハサミ 1 本 ▽カッターナイフ 1 本 ▽45 リットルポリ袋 30 枚 ▽マスク 7 枚 ▽ばんそうこう 1 箱 ▽ブルーシート約 6 畳 1 枚 ▽油性マーカー赤 3 本、黒 5 本 ▽ボールペン黒 10 本 ▽消しゴム付き鉛筆 12 本 ▽鉛筆削り 1 個 ▽トラロープ 1 本 ▽トラテープ 1 巻 ▽布粘着テープ 1 巻 ▽養生テープ 2 巻 ▽メガホン 1 個 ▽保安指示灯 1 本 ▽懐中電灯 2 本 ▽単 3 アルカリ乾電池 8 本

# 安心を作る置き薬

## 一災害時対策にもなるぞー

越中富山の薬売りは置き薬の配置先を定期的に訪問する中で情報伝達の役目も担っていたようですが、その置き薬制度は今でもあります。

### 置き薬のメリット

- 1、家族に合わせた薬の構成を考えてくれる
- 2、定期的に点検してくれる
- 3、代金は使った分だけでその他の費用は発生しないので経済的

### デメリット

- 1、少量タイプの薬が多いのでよく使うものなら市販薬の方が経済的
- 2、業者は玉石混淆のようで、確かめる事が必要。使っている人から評判を聞いて確かめるのも良いし、まともな業者なら身分証を提示し、名刺も渡す筈です。

自分で薬箱を整備するとなると結構な費用がかかります。また夜中に必要になることなど子供が居る家庭ではよくあります。24時間営業のドラッグストアもありますが、置き薬は買いに行かずともすぐ対応できます。中身も内服薬だけでなく外用薬もありますから、自分で包帯類を準備すれば最低限の災害対応

救急セットを整備できるのです。

その際は個人事情に併せたオーダーメイド救急セットも必要です。薬

を確実に処方し

てもらうための「お薬手帳」も忘れないようにしましょう。

災害時用救急セットを用意するなら、置き場所を車にするのも一案です。地震でごちゃ



ごちゃになって取り出せなかったなどと言う事も無く、万が一の交通事故の際にも有効です。その際の中身は出血を伴うケガ対応を考えたセットにすればかさばらず、車のトランクや座席の下などでも収納可能になります。

## 新会員紹介

うらべきょうこ

占部 京子さん

今回正会員のお仲間入りをさせて頂きました。

災ボラには10年前より災害シミュレーションのボランティアとして参加しておりました。しかし、ここ数年体力も落ちてきて地元の防災訓練にも出られなくなりました。

たまたま10月に篠原小であった地域防災訓練に家庭防災員の方よりお誘いがありました。その時に頂いたパンフレットで初めて災害ボランティア連絡会のことを知りました。この横浜に移り住んで50年、これからもお世話になります。自分の出来ることは協力したいと思います。どうぞよろしく願い致します。

## 一政伸子さん

こんにちは。今回会員になりましたNPO法人フォーラム・アソシエ理事長の一政伸子です。フォーラム・アソシエは新横浜に事務所があり、役員にも港北区のメンバーが数人います。私自身は生まれも育ちも座間市で、2人の娘は小・中学校とも私の母校に通った後輩になります。

生活クラブ生協で長く活動をしてきて、そのご縁で2011年8月に被災地（石巻、南三陸、女川、南相馬など）を訪れ、甚大な被害を目の当たりにしました。見た者、涙した者

の責任を思い、地元の友人と東日本大震災復興支援の市民団体「3.11を想う会」を立ち上げて活動してきました。6人で始めた会は12人になり、これまでにバザーなどで集めたカンパ金69万円を被災地で支援活動をしている団体に送りました。活動をする中で、震災に学ぶことが何よりも重要と感じ、防災減災を学び、今は「命を守る防災・減災講座」の講師としても活動しています。今年度から座間市災害ボランティアネットワークにも所属し、地域での防災活動を学んでいます。どうぞよろしくお願いします。

注：フォーラムアソシエとは



**ビジョン** (実現したい未来)：子ども一人ひとりの笑顔が輝く、希望と多様性に満ちた社会を目指す。

**ミッション** (社会で果たしたい役割)：自分で考え自分の意思で行動する次世代の担い手を生み出す。

との元に活動している団体で、防災講座も実施しています。

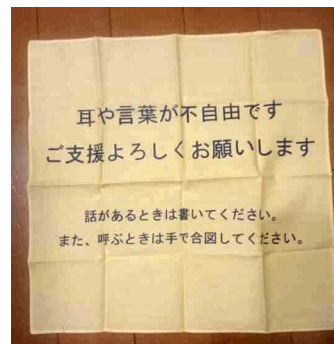
## リレー連載 我が家の防災 ⑬

### 半田さんちの防災

我が家には耳の聞こえない息子がいます。今年の3月まで18年間、横浜ろう学校に通いました。ろう学校の生徒は、横浜市内全域から通学してきます。そのため、学校からは通学途中に災害などが発生し困った時に使用するようと、写真のスカーフが配布されました。また、他にも、正方形の布の対角に黄色

と緑色に色分けし「I love you」の手形が書いてあるスカーフもあります。黄色は「耳が聞こえないので ご協力をお願いします」、緑色は「手話や筆談等でお手伝いができます」という意味です。対角に半分に折り、首や頭に巻いて使います。幸い、息子は通学中に災害に遭うことはなく、スカーフを使わずに卒業することができましたが、避難所等で過ごす際にもこのような物があれば心強く思います。他都市でも目印になるスカーフ(バンダナ)等を作成しているようですが、残念なことにあまり知られていないようです。聴覚障害は外見では分かりにくく、災害時の情報を正確に得ることが困難になります。最近、赤いヘルプマークを付けている方をよく見かけるようになりました。聴覚障害への理解が進むとともに、このような取組を知っていただけるとうれしいです。

(半田美香)



\*今回の訓練に参加された方々には緑と黄色のセットをお渡ししました。再度認識が広まる事を期待します。

## 試してみよう171(イナイ)

### 正月は災害用伝言ダイヤルが試せます

先号でも触れたように、災害用伝言ダイヤルは大きな災害時にはすぐに開設されます。つい習慣的に携帯電話でなんとか連絡を取ろうとしがちですが、実際には通じなくなる可能性大です。そんなとき便利な災害用伝言ダイヤルが間もなく使えます。

#### 【体験利用日】

- ・ 毎月1日及び15日 00:00~24:00
- ・ 正月三が日 (1月1日00:00~1月3日24:00)
- ・ 防災週間 (8月30日9:00~9月5日17:00)
- ・ 防災とボランティア週間  
(1月15日9:00~1月21日17:00)

#### 【提供条件】

- ・ 伝言録音時間 : 30秒
- ・ 伝言保存期間 : 体験利用期間終了まで
- ・ 伝言蓄積数 : 20伝言

このお正月にぜひ体験してみましょ。



またツイッター、ラインなど容量の少ない送信方法をこの機会に試すのも大事ですね。

## イベント案内

1、災害ボランティアセンターの役割、コーディネートの際大切にすべき視点などを、西日本豪雨の経験などを通して語って頂きます。

### ～西日本豪雨に学ぶ～

#### 災害時のネットワーク連携について

日時：2019年1月23日(水)

18時30分～20時30分

会場：横浜市健康福祉総合センター(桜木町)

講師：岡山NPOセンター代表 石原達也氏

主催：横浜災害ボランティアネットワーク会議

申し込み：電話、FAX、メールで

TEL 201-8620 FAX 201-1620

E-mail [saivol@yokohama-saigai-vol-net.jp](mailto:saivol@yokohama-saigai-vol-net.jp)

2、横浜災害ボランティアネットワーク会議は市内を四つのブロックに分けていざという時の応援も含む交流活動を進めています。今回の幹事区である青葉区からの案内です。

発災時に災害ボラセンを立ち上げるのには経験あるボランティアからの助言は有効です。災害ボランティア活動支援プロジェクトの話を伺い、その役割を知る研修会です。

日時：2019年1月29日(火)

14時～16時30分

会場：青葉区福祉保健活動拠点

講師：日野泰宏氏(越谷市社会福祉協議会)

申し込み：港北区社協事務局遠田か石河まで

#### 編集後記

☆また落としてしまった12月号。これでは良い年を迎えられません。(宇田川)

☆大掃除済みました? ついでに備蓄点検しましょう。(付岡)

☆札幌ガス爆発事故は人ごとではないです。この機会にスプレー缶の捨て方を再確認。(室伏)

☆西宮の実家が台風21号で被害を受けましたが業者の手配ができず、修理に着手できません。見積りもとれない建物がまだたくさんあります。(中島)